

平素は工業会の活動にご理解とご協力賜り誠にありがとうございます。

梅雨が明け、酷暑が続く屋外での仕事には大変厳しい時期となっています。日本だけでなく世界各地での異常気象が多発し、まさしく地球が沸騰しているような感じがします。皆様におかれましては特に熱中症には気を付けて頂き日々の業務に励んでいただきたいと思います。

さて9月号では安全衛生委員会主催の勉強会報告、秋の海外視察に向けた台湾視察の様子、会員企業によるセミナー報告、理事会報告、青年部会勉強会等をお届けさせていただきます。

## 《安全衛生委員会 勉強会》

6月27日安全衛生委員会主催の勉強会が開催されました。

綾仁理事の開会挨拶に始まり、下記内容にて実施いたしました。

### 1. 暑熱環境における熱中症対策講座

サントリービバレッジソリューション株式会社

法人スーパーバイザー 森田 雅之 様

近畿ペプシ、サントリーフーズ株式会社、サントリービバレッジサービス株式会社を経て2022年より今の担当に従事。

すべての働く人が職場で元気に過ごすために

# 暑熱環境における 熱中症 対策講座

～本資料は大手鉄鋼メーカーで指導する産業医監修のもと制作しています～

熱中症による死傷者数は建設業や製造業で多くなっているが、あらゆる業種で死傷事故は発生している。熱中症になりやすい時期は6～9月、時間に絞ると最高時間を越えた午後2時～5時、年代に目を向けると30代～50代が多くなっている。

体温よりももっと「体感的に感じる熱の強さ」は WBGT と呼ばれ、「気温・湿度・輻射熱」を用いて表される。WBGT は衣類環境（衣類の組み合わせ）や身体作業強度によって 10℃以上も変わる場合がある。

職場や現場における熱中症対策として体調確認の徹底、作業のアセスメント化、あらかじめの水分補給、休憩時間中における十分な水分・塩分の補給、医療機関の利用が挙げられる。また、鉄分の補給やお酒の適量摂取（アルコール約 20g）も重要である。

サントリーでは熱中症対策の飲料として「DAKARA PRO」や「GREEN DA・KA・RA」といった製品や、専用カードを用いた熱中症対策自販機を提供している。

## 2. 新人教育研修

株式会社オガワエコノス

峰松 様

# 安全第一(safety-first)

第一：安全

第二：品質(環境配慮、異物が少ない)

第三：生産(早くたくさん、作業効率)

# 安全+第一



## 安全第一というスローガンの由来

1900年初頭、アメリカ有数の製鉄会社「USスチール」のE・H・ゲーリー会長による

不景気の中で労働者たちは劣悪な環境の中でキケンな作業に従事していたため、多くの労働災害に見舞われていた。

当時の会社の方針は「生産第一、品質第二、安全第三」だった。

労働災害に見舞われ苦しむ姿に心を痛めていたし、「第一」としてきた「生産」まで下がってしまっていた。

そこで方針を転換し「安全第一、品質第二、生産第三」としたところ、労働災害は減り、品質・生産も上

現場では怪我や事故は常に隣合せである。未然に防ぐための準備や再発防止に努めることが怪我や事故の予防・減少に繋がる。

運転時の事故の多くは標識の見落としやわき見、薬による副作用によることが多い。現場や作業場では、機械での巻き込まれ・挟まり、フォークリフトや車両系建設機械の誤操作による事故が多くなっている。また、上記のような労働災害は経験年数3年未満の未熟練労働者に多く見られる。

現場のスローガンとして「安全第一、品質第二（環境配慮、生産第三（作業効率）」が掲げられている。「安全第一」というスローガンが掲げられている背景には憲法第 25 条（生存権）が大きく関与しており、労働安全衛生法では事業者等の責務及び労働者の責務が定められている。

事故を防ぐためには「ヒヤリハット」が起こった際にすぐに上長への報告や周りへの共有が大事。また、機械などに少しでも違和感があれば自分で解決しようとせず機械を止めたり、上長への報告が重要。もし、労働災害が起こった場合にも慌てず落ち着いて 5W1H をしっかりと上長に伝える。

## 《台湾事前視察》

7/4(火)～6(木)の日程にて秋に開催予定の台湾視察研修の準備で訪台して参りました。

今回の訪問先は下記の3ヶ所です。

- ・大園汽電共生股份有限公司(桃園市/バイオマス発電所)

桃園市大園区にある正隆(台湾最大の板紙メーカー)の遊休スペースを利用し、バイオマス発電設備を稼働し大園区内の工場へ電力と蒸気を供給。(RPF、木質、石炭、汚泥等を混焼し使用中)

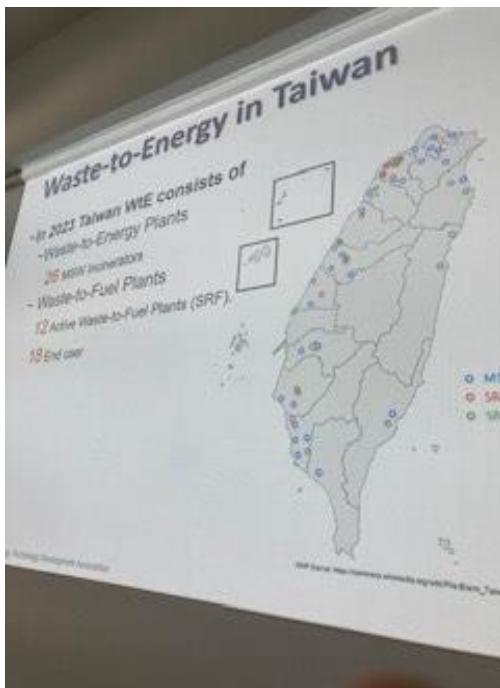
- ・連泰紙業股份有限公司(苗栗縣/RPF 製造工場)

苗栗県にある板紙・紙容器製造メーカー、自社の製紙過程で発生するスラッジの処理を中心としてRPF製造を手がけている。大園汽電共生股份有限公司へRPFを供給中。

- ・台湾性質能技術發展協會(台北市/産学官のバイオマス協会)

台湾工業局、台湾大学、台湾大手企業(台湾電力、台湾セメント、台湾プラスチック等)の産学官連携バイオマス関連団体





秋の視察に向け、理事メンバーの有志で事前に訪台いたしました。  
実りある海外視察となることを期待いたします。

#### 台湾視察日程

11月7日（火）～9日（木）の2泊3日

実施詳細につきましては、追って事務局よりご連絡申し上げます。

## 《セミナー参加報告》

### 台日バイオマスセミナー

阪和興業株式会社主催によるセミナー参加報告となります。

台湾、日本のバイオマス事情やRPF工業会のPR等

場所：TKP 東京駅カンファレンスセンター

時間：2023年7月25日 14:00～17:00

|  |                   |
|--|-------------------|
| ・張博士より台湾バイオマスマーケットの説明                                    | 14 : 00 – 14:15   |
| ・JWBA 様  | 14 : 15 – 14:40   |
| 日本における木質バイオマスエネルギーの状況と当協会の活動紹介<br>木質バイオマスエネルギーの健全な普及のために |                   |
| ・JORA 様  | 14 : 40 – 15:05   |
| 日本におけるメタン発酵を核とするバイオマス活用                                  |                   |
| ・沼田正俊様   | 15 : 05 – 15:30   |
| 日本 FIT 制度説明  |                   |
| ・阪和興業株式会社  | 15 : 30 – 16:00   |
| 国際バイオマスマーケットについて<br>日本一般産業脱炭素動き(GXリーグ)説明                 |                   |
| ・日本 RPF 工業会様   | 16 : 00 – 16 : 25 |
| 日本 RPF のマーケット説明  |                   |
| ・質疑応答  | 16 : 25 – 17:00   |

## 《 理事会報告 》

8月9日(水) エッサム神田ホール1号館にて令和5年度第2会理事会が開催されました。当日は台風接近に伴い急遽 ZOOM 参加になってしまったメンバーもいましたが、14名お集り頂き開催しました。

議事内容は以下の通りです。

### 議題1. 新理事の委員会等の配属について

- 本間洋士氏 (安全衛生委員会)
- 平林正幸氏 (技術品質委員会)
- 石坂典子氏 (総務広報委員会)
- 林 隆行氏 (用途開発委員会)
- 佐野文勝氏 (海外事業支援 WG)
- 石坂孝光氏 (海外事業支援 WG)

### 議題2. 技能実習制度移行プロジェクトの発足について

所轄官庁である経済産業省、環境省、厚生労働省の関係部署に今後の本事業に対する工業会が対処すべき方向性についてヒアリングを行い、対応することが目的

### 議題3. 台湾視察について

令和5年11月7日(火)～9日(木)にて決定

### 議題4. 来年の総会について

2024年6月13日(木)にて決定 場所は明治記念館

## 《 青年部会 第2回勉強会 》

8月23日(水) 15:00より発信会場及び ZOOM 開催 34名参加にて開催された。

年当初より要望が多かった物流問題及び DX について解説、実例等講義いただきました。

## ① 最近の物流政策の概要について

講演者：国土交通省 総合政策局 物流政策課 物流効率化調査官 笹口 朋亮様

物流業界の現状、ドライバーの働き方をめぐる規制の見直し、今後の具体的な施策等解説いただきました。

### 概略

持続可能な物流の実現に向け、わが国経済を支える重要な社会インフラである物流業界。

現在、担い手不足、カーボンニュートラルへの対応など様々な課題がある。これからの物流産業を魅力ある職場とするため、トラックドライバーの働き方改革に関する法律 が 2024 年 4 月から適用される一方、物流の停滞が懸念される「2024 年問題」に直面しており何も対策を講じなければ、2024 年度には 14%、2030 年度には 34%の輸送力不足の可能性がある。荷主企業、物流事業者（運送・倉庫等）、一般消費者が協力して我が国の物流を支えるための環境整備に向けて、（1）商慣行の見直し・・荷待ち、荷役時間の削減等（2）物流の効率化・・物流 DX や標準化など（3）荷主・消費者の行動変容・・再配達率の半減、荷主と物流事業者、消費者の意識改革が必要であり抜本的・総合的な対策を中長期的に継続し取り組む枠組みを法制化し確実に整備していく。



## ② 「産業廃棄物業界の DX について」

② - 1 講演者：AfterBlue 株式会社 津根 元信様

長年の廃棄物処理実務の経験を活かした、現場目線の廃棄物関連業務の効率化システムの導入をサポート。深刻化する人財難に向けてのソリューションや、資源物及び廃棄物に関する新しい仕組みづくり等へのリクエストに対し、様々な企業と連携しサポートをされています。

ICT を活用したサービスや業務改革が当たり前の中で、システム開発等への投資コストが膨らんでいる一方、運用ノウハウの欠如やミスマッチングにより投資効果が最大化しづらい状況に陥る企業も多い。

こういった人的要因や限られたノウハウによる社内課題に対し、商業的にバッチィングしないスタイルの似た複数社提携による社内及び業界共通課題へのソリューションを構築することで、効果的な時間短縮と投資の実現を提案。

② - 2 講演者：JOMYAKU 株式会社（じょうみやく株式会社） 執行役員 中野宜幸（ナカノノブユキ）様

「JOMYAKU：配車管理システムまにまにのご紹介」

収集運搬の配車管理におけるデジタル化について青年部会の会員でもある JOMYAKU 株式会社中野様による配車管理システムまにまにのご紹介。

廃棄物・リサイクル業界の商習慣に即し、回収品目・車両・免許などの制約や現場ごとの諸条件を加味して柔軟に配車が組むことが可能な為、廃建廃、スクラップなど、様々な業態に活用例があり、車両台数も10台以下から100台前後の利用者もある。自社で車両を保有していない商社的な事業者や備車の管理にも活用できている。

産業廃棄物業界においても物流問題に関する人材不足や効率化また、DX推進に伴う組織内でのICT人材の育成・確保ができていない企業が多くなっており（IPAの調査では、IT人材の質についても、「大幅に不足している」又は「やや不足している」という回答の合計は、90.5%にも達している。）今後どのように対処していくべきか悩みの尽きないテーマである。今回のような講演、紹介事例により問題解決の一助になれるような勉強会を模索し開催していきたいと考えております。

※IPA：独立行政法人情報処理推進機構

## 《今後の予定》

- 9月 5日（火） 安全パトロール実施（安全衛生委員会）
- 9月 13日（水） 技能実習実施状況見学（安全衛生委員会）
- 9月 13日（水） 委員会内施設見学会（用途開発委員会）
- 9月 19日～22日 ISO/TC300 国際会議出席（事務局長）
- 9月 27日（水） 廃棄物処理業界でのDX体験研修会（総務広報委員会）
- 10月 3日～4日 青年部工場視察見学会（青年部）
- 10月 17日（火） 安全大会（安全衛生委員会）
- 11月 7日～9日 台湾研修会（海外事業支援WG）

### 【編集後記】

異常気象という言葉が当たり前になっているように、毎日世界各地でとんでもない災害が発生しています。冒頭にも書きましたが本当に地球が悲鳴を上げているように感じます。気候変動に対し迅速に取り組んでいかないと地球には住めなくなってしまうのではないのでしょうか？

台湾でも脱石炭の動きは非常に進んでいるようにセミナーで感じました。11月に実施されます台湾視察も多くの会員の皆様に参加頂き、現地の状況を肌で感じて頂ければ何よりです。

今後も会員の皆様にお役に立てる情報を速やかにお伝えできる様、精進してまいります。

会員の皆様のご協力、ご理解を賜りながら運営して参ります。

何卒宜しくお願ひ申し上げます。

（文責；総務広報委員長 加山順一郎）

編集制作：総務広報委員会発行：一般社団法人日本RPF工業会

令和5年9月吉日

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1-9-2 高梨ビル5階

TEL:03-6206-8000

FAX:03-5296-0303

<http://www.jrpf.gr.jp>